

2026年8月26日（水）

老球の細道937号

体育館にエアコンを

会津バスケットボール協会 室井 富仁

孫たちの夏休み後半のニュースは、熊本地震、千葉の大雨災害関係が毎日のように続いている。特に災害後の避難生活や普及活動が、猛暑日、酷暑日と相重なって、災害関連死の助長や普及活動をより一層困難にしている。

このような自然災害が起こると思い出すのが東日本大震災である。今から15年も前になるが、テレビで避難所生活の様子を見るとつい昨日のようである。あの時は3月のまだ寒い時であったが、勤務していた葵高校の体育館には地震が起きてから3日後には浜通り、中通りの方から避難者がぞくぞくやって来た。多い時で600人を超えただろうか。

あの時から学校体育館での避難所支援対策はどのくらい向上したのだろうか。今でもプライバシーがない、トイレが汚い、そしてクーラーがなくて暑いなど変わらない環境のようだ。そのために、車の中で車中泊するなど劣悪な環境下で生活している人たちがいる。

葵高校の体育館での避難所生活を支援していた時に最も不自由したのは体育館の暖房であった。配られた毛布などは薄く、数も限られているために体育館を常に温かくする必要があった。学校にあったジェットヒーターやダルマストーブなど可能な限り体育館へ持ち込んだ。しかし、燃料となる石油が交通状態の悪さで減少し、避難者が十分な温かさの環境で生活を送ることができたのか、今思い出すと悔やまれる。

もし東日本大震災が熊本地震のように夏の今起こったらどうなっただろうか。15年前、会津若松市の高校の体育館にはほとんど避難者がいた。しかし、どこの高校の体育館にもクーラーはなかった。もちろん今もない。もし、またあのような大地震が今起こったら会津若松市の学校体育館では避難所生活は不可能であろう。

先日孫たちのミニバス練習を見学に行った。体育館は30度を超える暑さで、大型扇風機をまわしながら子供たちは暑さに負けないで、熱くなって練習していた。しかし、ちょっと前に郡山の帝京安積高校の体育館で福島県成年男子の練習試合を観戦した。天候は30度を優に越える暑さであったが、体育館の中は冷房ギンギンで、最近飲んでいないギンギンの生ビールを思い起こした。私は短パン、半袖シャツで体育館に入ったのだが、すぐに車に戻り、もしかのために持参したトレパンとトレーナーに着替えて、完全暖房で心地よく観戦することができた。孫たちもこのような環境で練習できたら、どれだけ練習効果が上がるだろう。

数年前の国会（三原じゅん子が閣僚だった時？）で文部科学省が全国の公立小、中学校の体育館にエアコンが設置されることに決まったと思う（？）。今どきの気温上昇や災害時の避難所対策として決まったと思うが、私の住む会津若松市では、小、中、高校と体育館にエアコンが設置されたという朗報は聞かない。社会ではこれだけ暑さによる熱中症の危険、災害時の快適な避難所環境が話題になっているのに、行政はなかなか動かない。犠牲者が出てからでは遅い。さらに、暑さ、寒さを気にしない環境で練習したいものです。